

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	かじやまうちだせん 梶山内田線
事業主体	徳島県	関係市町村	美馬市(旧穴吹町)
事業概要	【目的】 当路線は、美馬市中西部の八面山から北へ延びる稜線の東側斜面一帯を中心とした広大な人工林地帯での森林整備の基盤として整備するもので、森林の有する多面的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的としている。また、穴吹川沿いの国道492号の上部に平行して位置することから、災害時の迂回路として、また集落の孤立を防ぐための路線としての役割を担う。		
	【内容】		
	利用区域面積	1,477ha	[人工林面積:1,059ha (72%)]
	受益戸数(森林所有者数)	426戸	
	幅員	4.0m	
	計画延長	18,556m	(うち平成25年度末の供用予定延長 9,650m)
	総事業費	4,785,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 2,934,652千円)
事業予定期間	平成4年度～平成35年度	(32年間)	
評価	【事業の進捗状況】 当路線は平成4年に着工し、起点側の梶山工区3, 470m、中間の北又工区(起点方向へ)1, 680m、終点側の内田工区4, 500mが供用を開始しており、平成25年度末で進捗率52%となっている。 平成16、17年の台風により被災し、その復旧工事に2カ年休止したことに加え、例年の公共事業費の縮減が影響し進捗が取り戻せない状況が続いている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:52.0%]</div>		
	【関連事業の整備状況】 当路線には5路線の林道が接続しており、路網のネットワーク化が構築されるとともに、林業飛躍プロジェクトによる間伐システムが展開され、平成21年度から平成24年度までに延べ108haの森林整備が実施されている。今後は「次世代林業プロジェクト」による低コストで効率的な搬出間伐が約20ha計画されている。		
	【社会経済情勢の変化】 ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 このような背景の中、当市内林業従事者は高性能林業機械を追加購入し、積極的に森林施業に取り組んでいる。		
項目	【計画上新重要な部分の変更の必要性の有無】 なし		
	【事業効果の発現状況】 供用開始した区間を利用して、平成4年度から平成24年度までに、延べ454haの森林整備が実施されている。今後、供用区間が増加するに伴い、「次世代林業プロジェクト」によりさらなる森林の整備や保全のため、梶山地区において搬出間伐が計画されている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.07 (国の採択基準は1.0以上)</div>		
	【受益者・関係機関の意向】 適正な森林の整備を行う上で骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きく、また、5つの林道に接続し国道や県道にも接続していることから災害等緊急時の迂回路として利用でき、地元美馬市をはじめ森林所有者等、早期完成を強く要望している。		
	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。		